

大館のむがしっこ

—文・河田竹治さん—

老犬シロ物語

むかし、むかしの話つこである。大館市を東に二十キロ、土深井に接した旧秋田領の最北端、葛原地内に老犬神社という社がある。老犬シロを祭っている神社で、次のような悲しい物語がいまも語り伝えられている。

二百年余も前、大湯の草木に、左多六というマタオ二(獵師)があり、妻と一匹の老犬シロと共に平和に暮らしていた。

二月のある朝、左多六はカンジキを履き、シロを連れて猟にでかけた。しかし、その日に限って獲物に恵まれなかった。日暮れも近くなり、なかばあきらめて帰ろうと雪の山道を下って行くと、一頭のカモシカが目の前を駆けてい

た。左多六は、喜び勇んでこれを追ひ、ようやく射止めたが、他領の三戸に入っていた。

その日は山小屋で一夜を明かし、翌朝帰途に着こうとするところを数人の土地の獵師に見とがめられ、ついに捕われの身となった。いくらわけを話しても聞いてもらえず牢獄に入れられてしまった。

昔は他領に入る時はマタオ二(獵師)免状証文を持っていなければいけなかった。左多六は、領主より先祖の功により天下ご免の証文、すなわち他領、他国に入っても差しつかえない旨を記した立派な証文を持っていたが、その日に限って運悪く家に忘れてきたのだった。シロは牢獄の外から主人を見守

<9>

っていたが、やがて「わん」とひと声高く吠えると一目散に雪深い草木の里へと向っていった。やがて家にたどりついたシロは吠えながら家の中を駆けずり回った。左多六の妻は「これは主人にきつと何か危険なことが起こっているに違いない」と思いながら、ふと神棚に目をやると、そこに免状証明の入った巻物があった。「これだ、これに違いない、シロ、ありがとよ」シロは巻物をくわえると、今来た道を三戸に向って一目散に走った。

しかし、やっとたどり着いた時左多六はすでに刑場に消えていた。シロは主人の亡きがらを埋め、毎日毎夜、悲しみのあまり鳴き続けた。やがて、この声が天に通じたのか、この地に地震が起り、左多六を断罪した人々はいずれも不遇な死を遂げた。

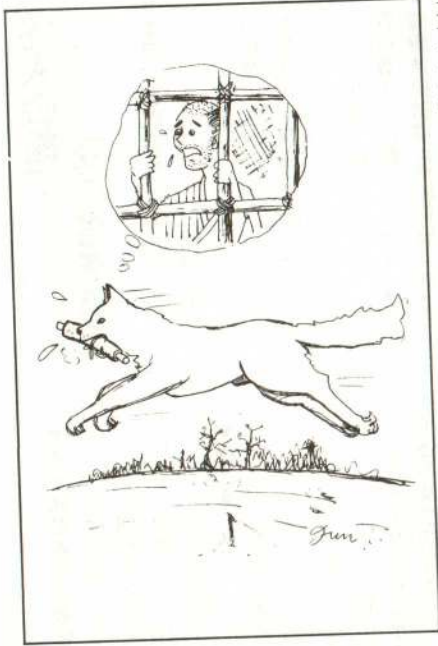
主人を失った妻とシロは、その後旅に出たのか、行方を知る者は誰一人いなくなった。長い歳月の後、馬がどうしてかこわがって進まない不思議な所がある、という言い伝えがあるので調べてみると、そこからシロの死がいが発見されたという。

村人たちはこれを大変哀れみ、シロを大切に祭った。これが、葛原にある老犬神社である。

忠犬シロの物語は、今も土地の人々の冬の夜話として語り継がれ聞く人々の胸を打っている。

毎年五月十七日は老犬神社の祭典で、地元の人々をはじめ遠方からも参拝者で賑わっている……。

(話者阿部トモトさん・故人)



絵・田村純一さん

保育園児を募集

59年度の保育園児を次のとおり募集します。

- 城南保育園 ☎42-1806
3歳以上児150名
- 有浦保育園 ☎42-1149
3歳以上児、3歳未満児120名
- 釈迦内保育園 ☎48-2231
3歳以上児45名
- 十二所保育園 ☎52-2172
3歳以上児45名
- 感恩講乳児保育園 ☎42-5130
0歳児8名、1歳以上3歳未満児52名

※受け付けは1月31日まで、各保育園のほか福祉事務所(☎49-3111内線207)でも受け付けします。

なお、現在保育園に入園している方で、59年度も引き続き入園を希望する方も申し込んでください。

第28回 市民スキー大会



とき・2月5日(日)
午前9時開会式
ところ・大館スキー場
市民の森

種目・回転、大回転……大館スキー場
長距離、継走……市民の森
主催・市教育委員会、市体育協会
※市民の森の駐車場は、距離競技の会場になっており、駐車できませんので、自家用車の来場は自粛されるようお願いいたします。